

資料Ⅳ 企業関係者（インターンシップ協力企業）からの意見聴取結果

地域連携アクティブスクールでは、実践的なキャリア教育の一環として、学校周辺に所在する企業に御協力いただき**インターンシップ（就業体験）**を実施しています。

今回、インターンシップの実施状況やキャリア教育の在り方等について検証するため、インターンシップに御協力いただいている企業からの意見聴取を実施しました。（主な意見は以下のとおり）

1 インターンシップについて

- インターンシップは、将来の人材を育成するという意味でマイナス面はない。会社の年間事業として計画化しており、今後も受け入れる方針である。
- 生徒が（介護施設に）入ることによって、高齢者の刺激になり、異世代の交流が図れる。介護の仕事内容が学べるので、社会人となるためのインターンシップは有効である。
- 中学生の職場体験とは違い、進路選択について前向きに取り組んでいる姿勢が感じられた。
- インターンシップは、生徒にとって大変良い経験だと思う。
- インターンシップは、社内の社員教育の一環としてとらえている。生徒を迎えるに当たり、社員一人一人に役割を持たせることで、考えるきっかけをいただいている。
- まじめに明るく取り組む姿は、私たち保育士も刺激を受けた。
- 自分の判断だけで行動したり、勝手に休憩したりすることがある。次に何をやるのか分からないのであれば、聞いてほしい。

2 人材育成に関する要望

- 時代の流れもあり、(最近の高校生は) 忍耐力がなく打たれ弱い面があるように思われる。心身ともに健康で、意志の強い人材が求められている。
- 基本は挨拶がしっかり出来ることである。職員同士や利用者との意思疎通を図るためのコミュニケーション能力が必要である。また、高齢者に対する敬意と思いやりの心を持ってほしい。
- (当社は) 客と接する場所なので、従業員に対しても心をこめた挨拶の徹底が必要である。
- 学生らしい明るさや社会に出て大切な礼儀正しい挨拶などが身につけていると良いと思う。
- 元気な挨拶や時間厳守、提出期限の厳守、メモをとる習慣、秘書検定3級程度の一般的なマナー知識の取得など、基本的なことを身につけておくことが就職活動や就業時に役立つ。
- 生徒を育成する上で精神的な強さと基礎学力を高めてもらいたい。(当社での) 採用は、学科だけではなく様々な要件を考慮して行うが、入社後、数学の小数点以下の計算や三角係数が仕事上必要となる。また、国語についても国家資格の受験や昇進試験の小論文、業務報告書等で必要となるので常用漢字は書けるようにしてほしい。
- 働くことの楽しさを指導してもらいたい。
- 指導しているつもりでも、「でも・・・」と言われることが多い。とりあえず人の話を受け入れることも大事だと教えてもらいたい。

3 その他地域との連携の在り方など

- 本年度、ボランティア生徒や施設見学を受け入れたが、他の交流の機会があれば積極的に行いたい。